岩手県の土地改良

2020(1月) No.582

■発行所／岩手県土地改良事業団体連合会　盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200　FAX(盛岡)019(631)3260
■編集発行人／千葉　匡　■印刷所／永代印刷株式会社
http://www.iwatochi.com

CONTENTS

●新年のご挨拶
岩手県土地改良事業団体連合会会長　小田島峰雄…… 2
●新年にあたって
全国土地改良事業団体連合会会長　二階俊博…… 3
●新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員　進藤金日子…… 4
●新年のご挨拶
都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員　宮崎雅夫…… 5
●第42回全国土地改良大会岐阜大会が開催 …… 6
●“闘う土地改良”を旗印に全国から集結 …… 6
●農業農村整備予算の確保及び台風第19号からの
早期復旧に向けた支援を要請 …… 7
●財務省、農林水産省に予算の確保を要請 …… 7
●平賀巖氏、阿部萬太郎氏が農政功労者表彰を受賞 …… 8
●令和元年度入賞作品が決定…… 8

「初冬の三郎堤」
令和元年度「農村景観」写真コンクール風景部門作品

新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会　長　　小田島　峰　雄

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、心新たなる希望に満ちた新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

昨年は、前線による大雨や台風などにより、全国各地で大規模な自然災害が発生しました。本県においても、台風第19号をはじめとした豪雨災害によって、多数の被害が発生しました。被災された方々に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

「農業・農村のセーフティーネットを目指して」を組織目標と掲げている本連合会は、引き続き関係機関と連携を図りながら、災害からの早期復旧に向けた取り組みを、進めてまいります。

さて、農業者の高齢化による離農や農地集積の進展などに伴う土地改良区組合員の減少等に対応していくために、昨年４月、土地改良区の体制強化を目的とした改正土地改良法が施行されました。この改正によって、土地改良区は、役員の資格要件や財務会計制度などの変更、利水調整規程の策定等を早急に進める必要があります。特に、複式簿記の導入を終えていない土地改良区にあっては管理施設の資産評価などを、また、複式簿記の導入を終えている土地改良区にあっても、新たな土地改良区会計基準に沿った会計処理システムへの変更などが必要です。本連合会では、この複式簿記導入をはじめとした改正土地改良法への対応に向けた支援を、引き続き進めてまいります。

また、農業を足腰の強い産業とし、子供や孫の世代にしっかりと引き継いでいくために、ほ場整備事業が県内各地で進められており、これまで事業を実施した地区では、農業の所得向上等の事業効果が着実に表れてきています。新規地区の採択に向けた動きも活発になっており、本連合会では、ほ場整備事業の調査計画業務において、営農の効率化や維持管理労力の低減等の効果が発現できる事業計画の策定に力を注いでまいります。

そして、国では、頻発する大規模自然災害に対応するために、国土強靭化に向けた取組を推進しており、平成30年度から令和２年度までの３年間を集中期間として、「防災・減災、国土強靭化のための３か年緊急対策」を進めています。

本県においても、ハード整備とともに、ソフト対策を組み合わせた防災・減災対策が展開されており、本連合会では、これまでに、ため池データベースの整備や90ヶ所を超えるため池のハザードマップ作成などに取り組んでおります。これらの取組は、自然災害に強い農山漁村づくりにおいて、大変重要な役割を担っておりますので、引き続き、関係機関とともに進めてまいります。

以上に述べたほ場整備事業や国土強靭化に向けた取組を計画的に進めていくためには、農業農村整備事業関係予算をしっかりと確保していくことが必要不可欠です。

昨年７月の参議院選挙において、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問である宮崎雅夫氏が、当選を果たされました。宮崎議員には進藤議員とともに、農業農村整備事業の推進に向けたご活躍を期待したいと思います。本連合会としましても、農業農村整備事業関係予算確保に向け、役職員一丸となって、財務省や農林水産省をはじめとした省庁、そして県への要請活動を展開してまいる所存でありますので、会員皆様方には、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、会員皆様方が、ご健勝にてご活躍いただきますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会　長　　二　階　俊　博

令和2年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、6月、8月の大雨、さらに台風第15号、第19号による暴風雨等により、全国各地で非常に多くの災害が発生しました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災をされた多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げます。

また、復旧・復興のために、被災地の最前線に立って日夜ご尽力頂いている多くの土地改良関係の皆さまに心から敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、平成から新しい元号「令和」となる大きな節目の年に、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和2年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、昨年度当初予算を上回る4,433億円を確保することができました。さらに、令和元年度の補正予算・臨時特別措置枠を含めると6,515億円となります。皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

また、昨年7月の参議院選挙におきましては、宮崎雅夫君が強豪ひしめく厳しい闘いの中、見事、勝利を勝ち取りました。進藤金日子参議院議員とともに、土地改良にとって実に12年ぶりの「車の両輪体制」が実現したわけです。

このように土地改良は、新しい元号「令和」の幕開けにふさわしいスタートを切ったわけであります。これも一重に「闘う土地改良」の旗印の下、組織一丸となって闘った結果であり、皆様方の御協力の御陰であります。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。特にここ数年は大規模な風水害により、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いており、平成30年の7月豪雨では、全国で32カ所のため池が決壊し、尊い人命も犠牲になるなど未曽有の被害が発生しました。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、2年続けて土地改良法が改正されるとともに、老朽化したため池の整備について抜本的な施策を講ずるため、長年の懸案であった「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」が国会で成立、施行されました。さらにいま、政府・与党では「食料・農業・農村基本計画」の見直しも議論されているところであります。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員　　進　藤　金日子

新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。昨年は、「令和」の御代に移り、多くの国民が寿ぐ中で天皇陛下が御即位されました。「令和」の時代が平和で穏やかであるようにあらためてご祈念申し上げる次第です。他方、昨年も多くの自然災害が発生しました。被災された全ての方々に心からお見舞い申し上げます。今年こそは災害の無い年になるように祈念して止みません。

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、総務大臣政務官としての私の担務である「国勢調査」（初回開始後百周年）も行われます。多くの国家的な行事の成功に向けて、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

さて、昨年末に令和元年度補正予算と令和2年度当初予算の政府原案が閣議決定されました。土地改良予算としては、総額で6,515億円（対前年度比64億円増）を確保できました。これも偏に、農業の競争力強化と美しい農山村の形成に不可欠な土地改良の実施に向けての現場からの強い要請と関係者の皆様の熱意を政府と与党にしっかりと受け止めていただいた結果です。貴重な予算が一日も早く現場に届くよう、今次通常国会で早期成立に向けて努力してまいります。

今回の予算の特徴は、引き続き「国土強靭化」に重点が置かれたこと、水田の高度利用対策が更に重点化されたこと、農業の競争力強化に加えて中山間地域等の条件不利地域の振興対策が手厚く措置されたことだと捉えています。予算の増額措置により土地改良が更に促進されますが、貴重な予算を効率的、効果的に執行し、土地改良に対する国民の皆様の期待に応えていくことが重要です。

昨年末、自民党農村基盤整備議員連盟総会において、ため池の整備促進を図る特別措置法を議員立法として検討することが提案・了承されました。ため池の保全管理を図る法律は、昨年制定・施行されましたが、整備促進に関する多くの課題が現場から提起されています。現場の実態に真摯に耳目を集めつつ検討を深め、与野党問わず多くの国会議員のご理解を得るべく努力してまいる所存です。

皆様、ご案内のとおり私の同志である宮崎雅夫さんも参議院議員として活躍しております。これも皆様方のご理解とご支援の賜物です。宮崎議員と私とが水鳥の強固な水掻きとしてフル稼働して、皆様と連携しながら「闘う土地改良」を共闘し、引き続き諸課題の解決とともに令和の新たな時代を切り拓くべく専心努力してまいる覚悟ですので、ご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

貴会の益々のご発展と本年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

新年のご挨拶

都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問
参議院議員　　宮　崎　雅　夫

新年明けましておめでとうございます。

岩手県の土地改良関係の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私にとっての昨年は大きな前進の年でありました。一昨年の1月から、土地改良の推進、農山漁村の振興のため、地球8周分に当たる30万キロ以上を移動しながら全国各地をお伺いし、地域の状況を自分の目で見て、皆様からのご意見を自分の耳で聞き、私の考えを自分の口で話をさせていただくなどの政治活動を行ってまいりました。岩手県の皆様をはじめ全国の皆様からご支援をいただき、お陰様をもちまして昨年7月末の参議院議員通常選挙において当選の栄に浴することができました。

当選後、8月1日に召集された臨時国会で初登院し、10月4日に召集された臨時国会では、農林水産委員会、決算委員会、地方創生及び消費者問題に関する特別委員会、資源エネルギーに関する調査会に所属しております。農林水産委員会等で3度質問に立たせていただき、土地改良の推進や予算の確保などこれまでの活動中皆様から頂いたご意見を私の質問として農林水産大臣等にしっかり伝えました。党での各種部会での発言なども含め、皆様と国政を繋ぐパイプとしての役割を果たせるよう日々努力してまいります。

昨年も残念ながら岩手県においては台風19号をはじめ一連の自然災害により、93億円を超える農林水産関係被害が生じるなど、農地や農業用施設も全国各地で大きな被害が広範囲で発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。早期の復旧はもちろんですが、土地改良の果たす大きな役割を踏まえ、防災・減災、国土強靭化の取り組みを強力に進めていかなければなりません。

特に、ため池の耐震対策・豪雨対策などのハード面やハザードマップの整備などのソフト面の対策は待ったなしです。政府の「防災・減災、国土強靭化のための3カ年緊急対策」による集中的な取り組みが終了する令和2年度以降も更に取り組みが促進するよう全力で取り組んでまいります。

そして、それぞれの地域農業が発展するための基礎となる基盤整備は、着実に進めていかなければなりません。省力化だけではなく若者の興味も高めるスマート農業は平地のみならず中山間地も推進していく必要があります。そのためには情報基盤の整備を含め基盤整備は欠かすことのできないものです。

これらの計画的な実施には、土地改良予算の安定的な確保が必要不可欠です。皆様からの大変大きなご支援により、令和2年度は6,515億円を確保することができました。今後ともこの流れを止めることのないよう尽力してまいります。

結びに、本年が皆様にとってよりよい一年となりますようお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

第42回全国土地改良大会岐阜大会が開催
― 佐藤慶一氏が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞 ―

10月16日、第42回全国土地改良大会岐阜大会が、『清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～』をテーマに、岐阜県岐阜市で開催された。

大会には、伊東良孝農林水産副大臣をはじめ、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問(参議院議員)、宮崎雅夫同顧問(参議院議員)他を来賓に迎え、全国の水土里ネット関係者約4,000人が参加した。

主催者の二階俊博全国土地改良事業団体連合会長の挨拶に引き続き、式典では全国土地改良功績者表彰授与式が行われ、本県から佐藤慶一須川土地改良区前理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞した。

【全土連会長表彰を受賞した佐藤慶一氏】

“闘う土地改良”を旗印に全国から集結
― 『農業農村整備の集い』が開催 ―

11月11日、全国土地改良事業団体連合会（二階俊博会長）は、令和２年度農業農村整備事業関係当初予算の確保と、各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催し、江藤拓農林水産大臣をはじめ104名の国会議員ほか多数の来賓の臨席の下、全国から土地改良事業関係者1,150名が集結した。

開会に当たり二階会長は、「今年も前線に伴う大雨や台風の暴風雨などにより、多くの災害が発生しています。被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げるとともに、被災地の一日も早い復興、回復を目指して出来ることは全て行っていく決意を申し上げる。来年度の予算については、現在、編成作業が進められており、“闘う土地改良”は続いていく。皆様方の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げる」と挨拶した。

【挨拶する二階全土連会長】

続いて、江藤農林水産大臣が「令和元年度の土地改良関係予算は、当初と前年度の補正を合わせて6,451億円と削減前の水準に回復してきたが、もっとアクセルを踏んで推進しなければならない。そのためにも、皆様方から一層のご指導をいただいて農林水産省としても全力で取り組んでいく」と祝辞を述べた。

また、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問（参議院議員）が、「皆様のおかげで、今回の参議院選挙において宮崎雅夫さんが当選し、アヒルの水かきが二つとなることができました。宮崎議員とともに一生懸命に水をかいて土地改良が少しでも前に進むよう皆様方のご指導を賜りながらしっかりと歩んでいく」と力強く述べた。

その後、宮崎雅夫都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問（参議院議員）が、「7月の参議院選挙において、皆様から大変大きなご支援を賜わり心から御礼申し上げる。もう一つのアヒルの水かきとして、進藤議員と二人で精いっぱい土地改良推進のため努めるのでよろしくお願い申し上げる」と述べた。

集いでは、優良地区の事例発表として長野県いくさか地区、長崎県三会原地区が紹介された後、『令和２年度の必要な予算を確保』、『台風第19号をはじめとした、大規模災害からの復旧・復興を早急かつ加速度的に進めること』など全６項目の要請案文が全会一致で採択され、参加者一同がガンバロウを三唱し閉会した。

農業農村整備予算の確保及び台風第19号からの早期復旧に向けた支援を要請

― 東北･北海道土地連連絡協議会が農林水産省、復興庁、財務省へ要請 ―

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会（会長：伊藤康志宮城県土連会長）は、11月12日に農林水産省及び財務省、復興庁に対し、「農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請」と「令和元年台風第19号の災害対応に関する要請」を行った。

今回は、「農業農村整備関連当初予算の確保」や「農村地域の国土強靭化に向けた支援」、「土地改良法改正に伴う土地改良区組織運営の適正化に向けた支援」等、東日本大震災からの再生・復興に関連し「農地・農業用施設の復旧・復興整備に必要な財政支援措置の継続」とともに、「台風第19号からの農地・農業用施設等の早期復旧に向けた支援」も要請した。

農林水産省では、江藤拓農林水産大臣へ要請を行い、江藤大臣からは「台風による被災現場を見て被害の甚大さを痛感している。農林水産省では様々な支援策を実施しているので、積極的にご活用をお願いしたい。また、来年度当初予算の確保について、一生懸命に頑張っていく。是非、皆様からの後押しを頂き、予算の獲得に向けて取り組んでいきたい」との力強いコメントを頂いた。

【江藤農林水産大臣（中央左）への要請】

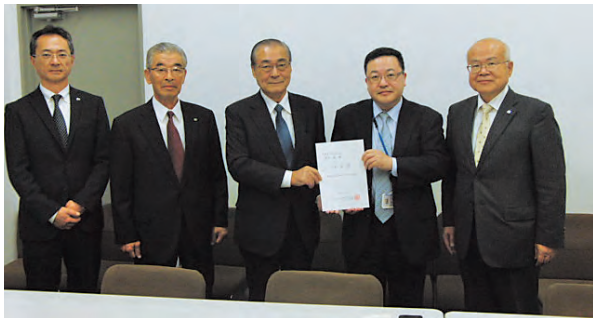
財務省、農林水産省に予算の確保を要請

― 令和2年度当初、令和元年度補正予算 ―

本会の小田島峰雄会長と大宮惇幸副会長、小野寺道雄副会長は、10月10日、財務省及び農林水産省に対し、「農業者の所得向上に向けた基盤整備の加速化及びため池の耐震化や洪水防止対策などの農村地域における国土強靭化に向け、令和2年度当初予算と令和元年度補正予算を確保すること」等について、要請を行った。

財務省では、角田隆主計局次長に面会し、小田島会長から、ほ場整備事業を契機とした6次産業化や都市農村交流の取組により地域所得が向上した事例や、畑地かんがい施設の整備により農業経営が安定し、安心して子育てができる環境が整い子供の人口が増加した事例の説明に続いて、「本県における農業農村整備事業の必要性や効果を御理解いただき、予算の確保をお願いしたい」と要請した。

角田主計局次長からは、「日本の農業を守っていくうえで、本気で農業をやっていきたいという子供を増やし、将来の担い手を育成していかなくてはならない。このために、収益性が高い作物にも積極的にチャレンジして、農業をしっかりと稼ぐことができる魅力ある産業としていくことが必要であり、こうした課題に、財務省と農林水産省が二人三脚で取り組んでいきたいと考えている」とのコメントをいただいた。



【角田主計局次長（右から二人目）に要請書を手渡す小田島会長（左から三人目）と大宮副会長（左から二人目）、小野寺副会長（右）、千葉専務理事（左）】

農林水産省では、牧元幸司農村振興局長及び安部伸治整備部長に要請を行い、安部整備部長からは「基盤整備を着実に進めて、高収益作物を積極的に導入し、稼げる農家を増やしていかなくてはならない。このために、基盤整備予算をしっかり確保したい」と力強いお話をただいた。

平賀巖氏、阿部萬太郎氏が農政功労者表彰を受賞

― 令和元年度岩手県農業委員会大会において ―

11月7日、都南文化会館（キャラホール）において、一般社団法人岩手県農業会議（高前田寿幸会長）主催の『令和元年度岩手県農業委員会大会』が開催され、平賀巖豊沢川土地改良区前理事長と阿部萬太郎紫波東部土地改良区理事長（他2名）が農政功労者表彰を受賞した。

この表彰は、永年にわたり農林業関係機関・団体の役員等として、地域農業・農村の振興に多大な貢献をされた方を表彰するもので、両氏の受賞は、地域における農業経営基盤強化等の功績が認められ、栄誉に浴された。

会場では、県内各地から参集した農業委員や関係者約800名が両氏へ盛大な拍手を送っていた。

【高前田会長(左)から表彰状を授与される平賀氏(中央)、阿部氏(右)】

【表彰状を手にする平賀氏(左)、阿部氏(右)】

令和元年度入賞作品が決定

― 絵画・写真コンクール ―

本会主催の令和元年度『小中学生による「美しく豊かな村づくり」絵画コンクール』および『「農村景観」写真コンクール』の選考会が12月13日に本会で開催され、絵画・写真あわせて195点の応募の中から、絵画33点、写真10点の入賞作品が決定しました。

全ての入賞作品は、本会のホームページ（http://www.iwatochi.com/）に掲載しています。

【絵画 金賞受賞作品】

●小学校低学年の部

「とうもろこしが、おいしかったよ」

●小学校中学年の部

「鬼剣舞とふるさと」

●小学校高学年の部

「りんごの収穫」

●中学校の部

「田んぼと岩手山」

【写真 最優秀賞受賞作品】

●風景部門

「春耕一番」

●人物部門

「田植え日和」